

掘り起こしてほしい、清水の歴史遺産

ラッピングコーディネーター、接客マナー講師

五味栄里さん

Eri Gomi



経歴

静岡県清水区生まれ。県立清水東高校卒業。学習院国文学専攻卒業後、サントリー株式会社入社。ワインなどの販売担当を経てラッピングコーディネーターとして独立。現在に至る。「元気な仕事は人生を豊かにできる」をコンセプトに、ラッピング、接客など幅広く仕事をこなす。三越伊勢丹、松坂屋、丸井、みずほコーポレーション、ミスノ、地方自治体など、延べ10万人以上を指導。東京ガスの新人研修の講師を10年間担当したほか、歌手浜崎あゆみさんのグッズのラッピングなども手掛けた。
<http://gomier.net/>

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

ラッピングのバイオニア

リボンや包装紙で贈答品などを包むラッピング。サントリーの販売担当をしていた時に、店頭で並ぶワインのボトルの首にリボンをかけたところ、「すごい反響がありました。楽しいし、ビジネスとしてやったら面白いなと思ったんですね」と、ラッピングを始めたいきっかけを語る。

独立後、大手メーカーやSC、百貨店など多くの企業のラッピングを手掛けてきた。

五味さんのビジネスラッピングは、ロースト、簡単、時間が短い、美しきの4つが柱。「単にテクニックだけでなく、例えば、

お祝いの時だったら『おめでとつごさいます』と声をかけて渡すとか、ラッピングに心をのせる」ことにも重点を置く。ラッピング講座の中に個別の企業、業態に合わせた接客・研修バージョンを採り入れているのも特色の一つだ。

「ワインにリボン」という、ちょっとしたアイデアが一躍脚光を浴びてから30年、

ラッピングのバイオニアとして業界で一目置かれる存在だ。最近では、三越伊勢丹でのラッピング教育をはじめ、高齢者対応の接客セミナーも人気で、高齢化社会を踏まえ、高齢者に優しい店舗づくりや「バリアフリー接客」に「より積極的に取り組んでいきたい」と話す。

次郎長の功績にも目を

東京から見た静岡市の印象は「おしゃれな街だ」と思います。コンパクトにまとまって、特に呉服町は感覚がいいですね。お気に入りのスポットは「昔と全然変わっていない裏門から眺めた母校、東高(清水東高校)の校舎の全景ですかね」。桜橋の下をとことこと走る静岡鉄道の電車や、狐ヶ崎の景色も忘れられない、という。

「清水は歴史のあるまち。徳川家康だけでなく、清水次郎長の功績をもっと取り上げられてしかるべきでは?と思いますね」とし、「次郎長は人足を束ね、清水港の港湾整備などに大変な偉業をなした人物。ところが映画にしても、やくざの切った張ったばかりがクローズアップされて、とても残念です」。

「次郎長以外にも、清水区には江尻など東海道五十三次の宿場が4つもあって、歴史的な遺産が多く残っています。そこをもっと掘り起こしてほしいですね」と力を込めた。

(文:長田義明、写真:五味栄里さん提供)